

戦国の名将

目指せ!大河ドラマ!!

生誕の地
井原市

北条早雲



ここ井原で
早雲は遊び
武芸・勉学に励んだ
早雲ゆかりの史跡を訪ね
戦国ロマンに触れてみよう

井原市・井原市観光協会

北条早雲像「井原市法泉寺」
(井原市教育委員会画像提供)

北条早雲の足跡



【井原に伝わる伝承】

米持城の曲輪で遊んでいた
まだ幼い新九郎は、
城奪りごっこをしようと
被官たちの子どもをひきつれ
米持城の北へつづいた
泉山の丘陵に駆けのぼり、
最初に始めたのが
城を作る縄張りづくりだった

幼い頃から新九郎の領主としての
資質を伺うことができる伝承

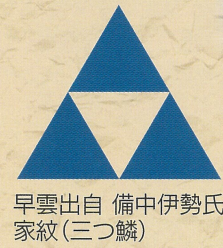
※曲輪：本丸・二ノ丸等の城内の
平らな小区画のこと
※縄張り：城の全体像の設計



早雲踊り



早雲まつり



早雲出自 備中伊勢氏
家紋(三つ鱗)

- ① 一四三二(永享 四) 荏原庄(岡山県井原市)で北条早雲生まれる。
- ② 一四六四(寛正 五) 三三歳、この頃足利義視の近侍となる。
- ③ 一四六七(応仁 二) 三六歳、応仁の乱で足利義視に従い伊勢に下る。
- ④ 一四六八(応仁 三) 三七歳、妹の嫁ぎ先である今川家に請われて駿河に下る。
- ⑤ 一四七〇(文明 二) 三九歳、この頃故郷に帰り法泉寺の改修・造営を行う。神代町小迫に薬師如来を祀る。
- ⑥ 一四七二(文明 三) 四十歳、法泉寺造営に当たり禁制を出す。
- ⑦ 一四七六(文明 八) 四四歳、今川家の家督争いを治める。
- ⑧ 一四七九(文明 一一) 四八歳、上洛。文明一五年から幕府の申次衆となる。
- ⑨ 一四八四(文明 一六) 五三歳、この頃法泉寺に摺り袈裟を寄進する。
- ⑩ 一四八七(長享 二) 五六歳、駿河に下り、小鹿範満を討ち、おいの氏親を駿河城主とする。
- ⑪ 一四八七(長享 二) 五六歳、興国寺城主となる。
- ⑫ 一四九三(明応 二) 六二歳、掘越御所の足利茶々丸を攻める。
- ⑬ 一四九五(明応 四) 六四歳、大森藤頼の小田原城を攻略する。
- ⑭ 一五一六(永正 三) 八五歳、新井城に三浦義意父子を滅ぼす。
- ⑮ 一五一九(永正 六) 八八歳、葦山城で北条早雲没す。
- ⑯ 一五二二(大永 二) 氏綱、早雲の遺言により、箱根湯本に早雲寺を創建する。

その後、二代北条氏綱の時代で武蔵国・安房国などを支配。三代氏康の時代に、関東一円を手中に収めたのである。

※本年表は、小和田哲男「北条早雲とその子孫」(聖文社)を基に、一部地元史家の研究を取り入れました。
※早雲の出生年については一四五六(康正二年)生まれ説あり

井原市観光協会

〒715-0014 岡山県井原市七日市町10
TEL.0866-62-8850 FAX.0866-62-8853 <https://www.ibarakankou.jp>

SOUN in IBARA



法泉寺

高越城主、伊勢新左衛門盛定（早雲の父）が建てた伊勢氏の菩提寺で、古潤仁泉和尚が開山。早雲も改修・造営を行い祖先の菩提を弔っています。



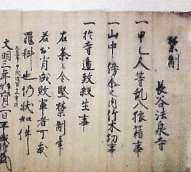
早雲と父の墓

法泉寺の境内にある2墓の室町時代の宝篋印塔は、父盛定と早雲の墓（写真左）と伝えられています。



すり袈裟(市重文)

すり袈裟は、伊豆の修禪寺に納められ広く信仰されていたものを早雲がもらい受け、法泉寺に寄進したと伝えられています。



平盛時禁制(県重文)

法泉寺にある早雲筆の禁制は、早雲の備中出身説を裏付ける貴重な資料です。

大岩刻早雲供養碑

伊勢氏の家臣だった平井氏が早雲200年忌に彫った供養碑。大岩には「普早雲寺殿天岳瑞公大居士墳」と記されています。



早雲の里マップウォーキングコース

早雲満喫コース

約3km 健脚コース 11.1km

早雲の里 荏原駅

約3.0km

法泉寺

約2.0km

大岩刻早雲供養碑

約2.3km

高越城址

約1.0km

宝蔵院

約1.7km

新九郎薬師堂

約3.0km

早雲の里 荏原駅

→→→ 早雲満喫コース

早雲お手ごろコース

約5km

早雲の里 荏原駅

約2.5km

高越城址

約1.0km

宝蔵院

約1.5km

早雲の里 荏原駅

→→→ 早雲お手ごろコース

※高越城址へお車でいられる場合には、黄色で表された道路をご通行ください。



高越城址(市史跡)

蒙古襲来に備えて築かれた山城で、室町時代に伊勢氏の城となりました。南に旧山陽道と小田川を望み、山頂からは360度の展望が開けます。「北条早雲生誕之地」と巨大な石碑も建っています。



このように武勇と情勢判断に優れた早雲は、領国経営にも手腕を発揮し、領民から名君と慕われ、関東制覇の礎を築いた。

その後、妹の嫁ぎ先、駿河の守護今川家の家督争いを治め興国寺城主となった。そして、堀越御所や小田原城などを攻略し、一五六年に伊豆・相模を手中に収め、

足利義視の近侍となり応仁の乱で伊勢へ下る。三十三歳で上洛し、京都伊勢氏の養子となって青年期まで荏原庄で武芸と学問に励んだ。

伊勢新九郎盛時と名乗り、伊勢新九郎盛定の子として生まれ、伊勢新九郎盛時と名乗り、

戦国の魁

ふるさとを訪ねると 早雲の生き様が見えてくる。



新九郎薬師

室町時代作と伝えられる薬師如来で、早雲が祀ったと伝えられており、背中には「祈願主新九郎」と書かれています。



そうじゆんくん



早雲の里 交流センター

地域住民のふれあいと交流を図る拠点施設として設置されました。施設内には、早雲にまつわる資料も展示されています。



井原鉄道
早雲の里 荏原駅

※中央は、北条早雲画像(小田原城天守閣蔵)